

2024 年度入学 AO 入学試験(2 期) 小論文課題

千葉商科大学大学院
会計ファイナンス研究科

次の 3 つの課題 (I、II、III) から 1 題を選んで解答しなさい。

I 「会計に関する課題」

以下の問題 A か問題 B のいずれかを選択して解答しなさい。なお、問題 A と B のどちらを選択したか冒頭に必ず明示すること。

【問題 A】

以下の文章は、中村万次の『英米鉄道会計史研究¹』からの一節です。
この文章を読んで以下の問いに答えなさい。

運河会社は、建設のために多額の資本を必要とするだけでなく、固定資本の比率が運転資本に比べて極めて高い。また運航までに長期の年月を要するし、はじめから企業の継続を前提としているので、資本の調達や運用、あるいは建設コストの解明など、これまで他の事業が経験しなかった課題を解決していかなければならなかった。

出資金だけについてみると、東インド会社や南海会社のように、それぞれ 300 万ポンド、1,000 万ポンドという会社もあったが、資本の固定比率という側面からみると、運河会社の原初投下資本の固定化ほどはなほだしいものは存しなかった。貿易会社では、一航海ごとに口別損益計算を行い、利益を分配すればよい。海難に遭うと、残余財産を処分して清算してしまう。そこでは原則として期間損益計算の必要は認められない。運河会社では、資本の大部分が運河に吸収されているし、ルートの延長または建設上の見積違いがあると、追加投資や借入等による資金の調達が困難となる。投資者からは建設利息の要求や、建設コストの解明など、財務情報を開示することを要請される。株主は、定期的に利子率を上回る配当を要求するので、配当可能利益を計算するための会計組織が必要となる。継続企業であるため、固定資産の価値補償が新しい計算課題となってくる。株式会社資本の巨大化、建設期間の長期化、株主数の増大と定期的配当の要求は、イギリスにおける株式会社会計に新たな課題を投じた。それはまた 1830 年代から鉄道会社の会計にも継承されていった。

設問 1 この文書にはどの様な時代について記述しているか述べなさい。

設問 2 東インド会社について知っていることを述べなさい。

設問 3 中村は運河会社の貿易会社の相違をどの様に考えているか述べなさい。

設問 4 運河会社が会社会計に与えた課題は、どの様なものであるか述べなさい。

¹ 中村 万次『英米鉄道会計史研究』1991、同文館出版、pp3-4。

【問題B】

設問

- ① 棚卸資産とはどのようなものか述べなさい。なお、説明において、利益計算における棚卸資産の意義に関して、「売上高」と「売上原価」という用語を使用して述べること。
- ② 棚卸資産の評価方法として、税務上は最終仕入原価法が認められているが、会計上は望ましくないと言われている。最終仕入原価法とはどのようなもので、なぜ会計上望ましくないのか、その理由について述べなさい。
- ③ 通常の販売目的で保有する棚卸資産の評価基準は、下記の通りである。
「通常の販売目的で保有する棚卸資産は、取得原価をもって貸借対照表価額とし、期末における正味売却価額が取得原価よりも下落している場合には、当該正味売却価額をもって貸借対照表価額とする。この場合において、取得原価と当該正味売却価額との差額は当期の費用として処理する。」とされている（企業会計基準第9号「棚卸資産の評価に関する会計基準」）。
このような評価基準となっているのは、どのような考え方であるのか述べなさい。

II 「法律（税法・会社法・その他関連法）に関する課題」

設問 現在、日本には様々な税金があるが、現在の日本の税制上の問題点と思われる点を挙げ、その内容や改善すべき点などについて、あなたの考えを述べなさい。

III 「ファイナンス・その他時事問題に関する課題」

設問 1 社外取締役にいう「社外」とは何か説明しなさい。

設問 2 社外取締役に期待される役割を説明しなさい。